



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：モッタキ外相の辞任の可能性に関する報道

(10月24日付現地報道)

- 10月24日付 AFP は ISNA を引用し、ジャラリ国会安保外交委員会報道官の「昨夜(23日)モッタキ外相が大統領に辞表を提出した」との発言を報じた。一方、同日付 ISNA は、「情報源を誤ってジャラリ報道官とした」として訂正し謝罪すると共に、同報道官による「(モッタキ外相辞表提出の)報道を強く否定する。一部外国メディアは自分の発言を引用し、同外相の辞任を報じているが、これを否定する」との発言を報じた。
- アフマディネジャード大統領の発言(24日)
(モッタキ外相辞任報道について問われ)これは心理戦の一環である。自分はそのような事は聞いておらず、本日もこれまで同様、モッタキ外相は最後まで閣議に出席した。
- 改革派系「エーテマード」紙の報道(24日付)
 - (1) ボルジェルディ国会安保外交委員長は、「噂は承知しているが、仮にモッタキ外相が更迭されるならば、大統領はこれまでに自分に知らせただろう。モッタキ外相は現在のポストに留まると思う」と述べた。
 - (2) ガンバリ同委員会メンバーは、「最近3カ月間、モッタキ外相への辞任圧力が強まっており、ラリジャニ書記辞任後、同氏に近いモッタキ外相への圧力は更に強まっている」と述べた。
 - (3) ファラーハットピーシェ同委員会メンバーは、「モッタキ外相は今後数カ月以内に辞任するだろう。モッタキ外相とラリジャニ前書記長は、現政権外交政策チームの合理主義者であり、外務省関係者からも同外相が近く辞任するとの話が聞こえてくる」と述べた。
- モッタキ外相の発言(24日)
 - (1) 自分は辞任していない。本件に関するあらゆる噂を否定する。我々は最高指導者の見解及び指示に従い、国民の視点に立ち、政府が選択した道で政府の政策の枠内で、体制及び革命の目標に奉仕する義務をもっており、そうすることを決意している。外務省は1カ月後まで日単位で日程があり、(イラン暦)本年末(注:2008年3月19日)まで外交政策に関する計画を立てている。来年に向けた計画も用意している。自分及び外務省は、それらをこなすために膨大な時間を費やさねばならず、噂に付き合っている暇はない。
 - (2) 外務省は様々な分野を強化するために機構改革を行う。アラブ・アフリカ担当外務次官は、「アラブ・近隣諸国担当」次官と「アフリカ担当」次官に二分される。欧米担当外務次官は、「欧州担当」次官と「米州担当」次官に二分され、中南米諸国は米州担当の所掌となる。新機構での(ジャリリ次官の後任の)欧州担当外務次官は決定済みであり、近く業務を開始する。米州担当については、検討が進められている。